アンソニ　米国出身の元モルモン教徒

：

明:米国人モルモン教徒によるイスラ ム改宗 。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 男性

より: アンソニ

日10 Aug 2015

集日 10 Aug 2015

慈悲深き慈 あまねくアッラ の御名において、 を取ります。

それ程 くない 去のある夜、私はバイブルの正 性への信念に して疑 を持つようになりました。それにより、私は 落ちしていました。神が存在していること、そして神が人 に宗教を下したことを 信してはいましたが、それを つけることができなかったからです。それがなぜそんなに しいことだったのでしょうか?
私は神に祈りつつ、なぜあなたは 典（バイブル）を下しておきながらそこに欠 が入りむのを したのか、と いかけていました。主は、私が ねる前からすでに に答えていました。

その 2年前、私は16 にして宗教を切望していました。それは、あたかも えることのない喉の きのようなものでした。私はモルモン教に 足していると思い んでいましたが、本

当は ったのです。神はまるで私を呼んでいるかのようでした。私は 典をじっくりと　することを 断しました。私は「モルモン 」を傍らに押しやり、バイブルを手に取りました。私はそれまで教え まれてきたものではない、 宗教の 解を学びました。なぜならモルモン教では非常に特殊な「公式」の教えを通したバイブルの理解をしているからです。私は自分が 宗教者でありつつ、 典に忠 に おうとしている者であるかのように心がけました。

 べていくと、キリストはユダヤ人にのみ教えを いていたことが分かりました。つまり彼は、イスラエルの民だけに宣教していたのです。彼の人生を精密に べていくうちに、彼は 存するいかなる宗教にも ってはいなかったことが分かりました。彼は 去のユダヤ人に下された神の法に う者だったのです。私の宗教は、その 点で疑わしいものとなりました。また使徒行 において、 使徒は豚肉を始め、それ以前に神によって禁じられていた食物を食べたりはしなかったことも知りました。他の では、キリスト（神の慈悲と祝福あれ）の追 者たちは、 去に下された神の法と　をすべて守っていたことが されていました。私の宗教だけでなく、他のキリスト教徒たちもそうした模 に ってはいませんでした。

さらに 密な研究の 果、私はすべてのキリスト教会が、イエスの言 の多くと矛盾したことを いていたパウロの教えを基にしていることを知りました。そのとき、私は自分の宗教に深刻な嫌疑を抱くようになりました。

私は唯一の神、イエス、モ ゼ、ノア、そして唯一の神への崇 を いた、その他すべての言者たちを信じていました。しかし、バイブルに取って代わる 物などあるはずがないと思い んでいました。

すると私はふと、ムスリムの旧友が言っていたことを思い出しました。彼は、ムスリムがクルア ン、唯一神、そしてキリスト教 ユダヤ教の　言者を含む、神に遣わされたすべての 言者たちを信じていると言っていたのです。当 、私はイスラ ムについて非常に初 的な解 をする本を一 だけ持っていました。それは私にとって重要な典 となりました。私はイスラ ムについてより理解するようになり、それをある程度 味深く捉えていま

した。

その 、私はインタ ネットでイスラ ムについて 索してみることにしました。キリスト教の信仰に して反 するサイトを つけ、それを　しました。そこでは、いかに大半のキリスト教徒たちが自らの 典に背いているかが 明されていました。ムスリムのサイトは、　に私が既に知っていたことを　してくれました。

私のイスラ ムに する 心は急上昇しました。私は 人からクルア ンを借り、数　にそれを みえると大 足しました。そこにある言 を一字一句信じました。ただし、十字架へのイエスの磔が　にはされていなかったということだけは信じられませんでした。私はバイブルに酷く洗 されており、当 は真理を受け入れることができなかったのです。

そして、遂に私のバイブルの　性と　性への信 が完全に失われたあるとき、再びイスラ ムを べてみようと思いました。心の中では、 去2年 において真理はイスラ ムにあることを信していましたが、私のエゴはそのことを受け入れることができませんでした。そうした 迷さには 人的な理由があります。それはサタンによって私の心に植え付けられたいくつかの理由でした。私はネットで新たに 索を始めました。多くのサイトを　し、多くの管理人から情 提供を求めました。クルア ンに する 味深い事 について知ると、私はこれこそが神が私をお きになる道なのではないかと思いました。しかし、まだ は熟していませんでした。

数日 、あるサイトの管理人がメ ルの返答をしてくれました。彼は私のイスラ ムへの 心に感 の意を示し、イスラ ムに する疑 などがあればいつでもしてくれるよう述べてくれました。

そうして、私たちはネット上でのやりとりを 始しました。彼はイスラ ムについての多くの知 を与えてくれました。私は彼に「ムスリムは、『十字架への磔は　にはなかった』ということをどうやってキリスト教徒に 明するのか」という、重要な　をしました。彼は直接会って し合うことを提案したので、私はそれを了解し、近所のピザ屋で会うことになりました。私たちの会 は素晴らしいものとなりました。彼は私が 落としてい

たバイブルの を示してくれました。彼は私にクルア ンの翻 本や 演会のCDをくれました。 宅すると、私はこれが神の宗教だと 信しましたが、改宗に急ぎたくはありませんでした。その代わりに、私は独学を めました。

独学からはひとつの にたどり着きました。それは、イスラ ムが神による真の道であるということです。ただ、私は改宗することを怖れていました。改宗は人生を えてしまうものであり、そうしたことを い 持ちで行いたくはなかったからです。

ある日、ピザ屋で会った例のムスリムが金曜礼 （ジュムア）に れていってくれると言いました。その前夜、サタンは私に く影 力を及ぼしました。サタンは、私がシャハ ダ（「アッラ 以外に神はなく、ムハンマドはアッラ の使徒である」と公にする信仰宣言のこと）し、イスラ ムに改宗することを知っていたのです。サタンは「イスラ ムは正しい道などではない」と私の心に夜通しでささやきかけました。その影 はあまりにもかったため、私はその夜1 以上眠ることはできませんでした。サタンは私の に疑念を植え付け、私も自分が改宗しないものだと思い んでしまった程でした。

眠りについて1 ほど つと、母 が起こしに来て、彼女が病院から ってくるまで子供たちの世 をするよう言ってきました。私の幼い弟が怪我をし、母は骨折を疑っていました。私は彼女が ってくるまで子守りをしなければならなくなりました。彼女は夕方の6 までは って来ないだろうと言いました。

それを いた私は、ジュムア礼 に行くのは 理だと悟りました。それが始まる は、家に居なくてはならないのです。例のムスリムが してきました。彼が はできているかと いたため、事情を 明しました。彼によると、これが私を一 に れていくことのできる唯一の会だったらしく、とても残念がっていました。彼は弟たちを一 に れてきてはどうかとさえ提案しました。彼らはおそらく居心地を く感じるだろうから 理だと私は言いました。何か解 案が出るかも知れないから30分 にまた してくれとは言いましたが、心の底ではそれを予期してはいませんでした。

母に してみると、なんと私が外出しても わないという返事がありました。弟たちを れて行くことのできる余分なお金があったため、私は子守をしなくても良いことになったのです。私はこの小さな奇 について神に感 しています。なぜならこの出来事は私の人生を えたからです。例のムスリムは 日、私がモスクに行けるように神に依 したと述べました。私が行けないことを告げた 、物事の最 的な 定 は神にあることを知っていた彼は、神に祈りを捧げたそうです。もし私がムスリムになるのであれば、それは神の御意に依 していることなのです。私がムスリムにならないのであれば、それは元来、神の御意ではなかったことなのです。

私が来れるようになったことを知った例のムスリムは、とても喜んでいました。そのもなく彼は迎えに来てくれました。道中、私は体 を崩してしまいました。私は吐き 、虚脱感、目眩を感じ、今にも倒れてしまいそうでした。それはサタンの仕 でした。サタンは私がモスクに行けないようにすることに必死で、体 の さからそれを めさせようとしていたのです。事 、それは前夜に殆ど睡眠を取っていなかったことが原因でした。

モスクへの道中での 内で、私はシャハ ダに して 躇っていること打ち明けました。それは私次第だと彼は言ってくれましたが、サタンが人の心に植え む疑念に して注意するよう彼は促しました。それから くはサタンによる心への きかけについて、そしていかにサタンが人々を光から へと引きずり出すかについて 内で りました。彼によると、最もサタンの影 を受けやすいのはムスリムと、イスラ ムに改宗しようとする非ムスリムとのことでした。一般的に非ムスリムは既に神から く れ去ってしまっているため、サタンは彼らの妨害をすることはないのだと彼は言いました。昨夜、私の を たしたものは全てサタンによるものだったのだと彼は 明しました。サタンは私を光の中から引きずり出すために、私を疑念で一杯にしたのです。翌日、私がシャハ ダをすることを知っていたサタンは、それを阻止するのに必死だったのです。

私たちがモスクに入ると、彼は礼 前のお清め（ウドゥ ）の方法を教えてくれました。お清めの に私は非常に爽快さを感じ、吐き はすっ んで行きました。私はもう体 のことなど全く にしておらず、神の崇 の に居ることが心地良く感じました。私たちは 任者の

元へ行き、合同礼　に改宗したい旨を えました。彼はにっこりと笑い、温かいハグで 迎してくれました。偶然その に居合わせて、その会 を耳にした の同胞も同じようにしてくれました。彼は言いました。「神の祝福がありますように。おめでとうございます。」彼らはとても美しい、神の人々でした。私はそれまで、そうした人々のようになりたかったのです。

合同礼 の前、イマ ム（礼 先　）は何と、サタンによる人の心への きかけ、そしていかにサタンが光から へと 惑するのかについて 教しました。私はただ呆然としました。例のムスリムが 内で っていたことを、 くべき偶然としてイマ ムはその日、そのことについて 教することにしたのです。私はそれが、サタンを　せよという神によるメッセ ジだと思っています。私はシャハ ダが待ちきれず、合同礼　すぐに正面へと急ぎました。

おおやけにイスラ ムを宣言した 、おそらくその にいたすべてのムスリムたちが私のもとに来てハグをしました。そこには最低でも数百人の同胞たちがいたので、私がいかに多くのハグを受けたか想像できるでしょうか。彼らは私を 迎し、こう言いました。「神の祝福がありますように。君は正しい　をしたのだよ。」

その日、2つの 力が きあっていました。サタンと神です。しかし、神の 力は私が抵抗するには 大 ぎたため、私はイスラ ムによって神に ったのです。例のムスリムは、神が私たちに 世で授けてくれる最大の恩 はイスラ ムであると言いました。インシャ　アッラ　（神の御心であれば）、その恩 を私は生涯に渡って守り通すでしょう。また彼は、イマムがサタンの きかけという 材について 教するのを いたことがなかったと言いました。その　はたまに言及されるものの、合同礼 の 教全体において られることは 多にないことだと言っていました。

私の改宗 が、同じような葛藤に直面している人々の助けとなることを祈 しています。私の体 はあまりにも きに ちたもので、それを忠 に文章にすることは不可能です。これを んだ方々が、あの日私がすることができたようにサタンに打ち つことができることを祈っています。

アッサラ ム アライクム。神が私をお き下さったように、あなたをお き下さいますように。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/2609

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。